

第 3 次
江 田 島 市
総 合 計 画

(江田島市まちづくりビジョン)

基本構想
(全体ビジョン)
《 案 》

令和6年1月

江田島市

目次

第1章 総合計画について

1 第3次江田島市総合計画について-----	2
1-1 第3次江田島市総合計画（江田島市まちづくりビジョン）とは-----	2
1-2 計画の特色-----	2
1-3 計画の構成と期間-----	3

第2章 江田島市を取り巻く状況、これまでのまちづくりの振り返り

1 まちづくりを取り巻く状況-----	6
1-1 江田島市を取り巻く社会の潮流-----	6
1-2 江田島市の人口等の状況-----	9
2 これまでのまちづくりの振り返り-----	11
2-1 江田島市における特長・主なまちづくり-----	11
2-2 江田島市が直面する大きな課題-----	13

第3章 10年後のまちづくり

1 市民・事業者等の想い-----	16
2 江田島市がめざすまちの姿-----	18
2-1 めざす姿と基本的な考え方-----	18
2-2 目標値-----	20
2-3 重点テーマの方向性-----	21
3 施策体系-----	22

基本構想（全体ビジョン）

第1章 総合計画について

1 第3次江田島市総合計画について

1-1 第3次江田島市総合計画（江田島市まちづくりビジョン）とは

総合計画は、わたしたちのまち・江田島市のめざす将来像とその実現に向けた施策を表したもので、まちづくりの指針となるものです。

以前は、総合計画の策定については地方自治法により定められていましたが、平成23（2011）年5月の法改正によって策定義務はなくなり、各自治体において判断できることになりました。

平成16（2004年）11月、4町合併により誕生した江田島市は、これまで2次にわたり総合計画を策定し、社会環境の変化や多様なニーズへの対応を図り、島の自然環境の恵みや島内外の多様な主体との交流を活かし、まちづくりを進めてきました。

しかしながら、現在の我が国は、人口減少・少子高齢化が急速に進展し、かつ、人口の東京一極集中に歯止めがかからない状況にあり、江田島市のような地方部にあっては、人口減少に起因する、暮らしの持続性を損ないかねない様々なリスクが顕在化しております。

このような中であっても、今はもちろんのこと、未来を担う次世代に、活力ある江田島市をつくり、引き継いでいかなければなりません。

このため、今後の10年間（令和7（2025）年度～令和16（2034）年度）を区切りとして、新たな江田島市のまちづくりの指針が必要であると考え、「第3次江田島市総合計画（江田島市まちづくりビジョン）」を策定することとしました。

1-2 計画の特色

（1）「めざすまちの姿」を実現するため、みんなで目標に向かって進んでいく計画

本計画では、こどもから高齢者の方まで、すべての世代が共感できる「江田島市のめざすまちの姿」を明示しています。この「めざすまちの姿」の実現に向けて、江田島市一丸で取り組めるよう、市民、企業（事業者）、団体、行政等の各主体に目標や取組を共有し、行動へつながることを目指した計画としています。

（2）市民の声をもとにつくられた計画

中学・高校生等、次世代を担う若い世代の意見をはじめ、市民、企業（事業者）、団体からの想いをくみ取ることに留意し、より幅広く市民の声を生かした計画としています。

（3）重点的に取り組むべきまちづくりを明確にした計画

教育・文化、産業・観光・交流、福祉・保健等、まちづくりの推進のために様々な取り組むべき分野がある中で、市民の想いから導き出された「めざすまちの姿」を実現するために、今後の社会情勢も見据え、江田島市として重点的な推進が必要となるまちづくりのテーマを明確にした計画としています。

1-3 計画の構成と期間

本計画は、基本構想（全体ビジョン）、基本計画（分野別ビジョン）、実施計画で構成し、基本構想・基本計画の期間は令和7（2025）年度から令和16（2034）年度までの10年間とします。

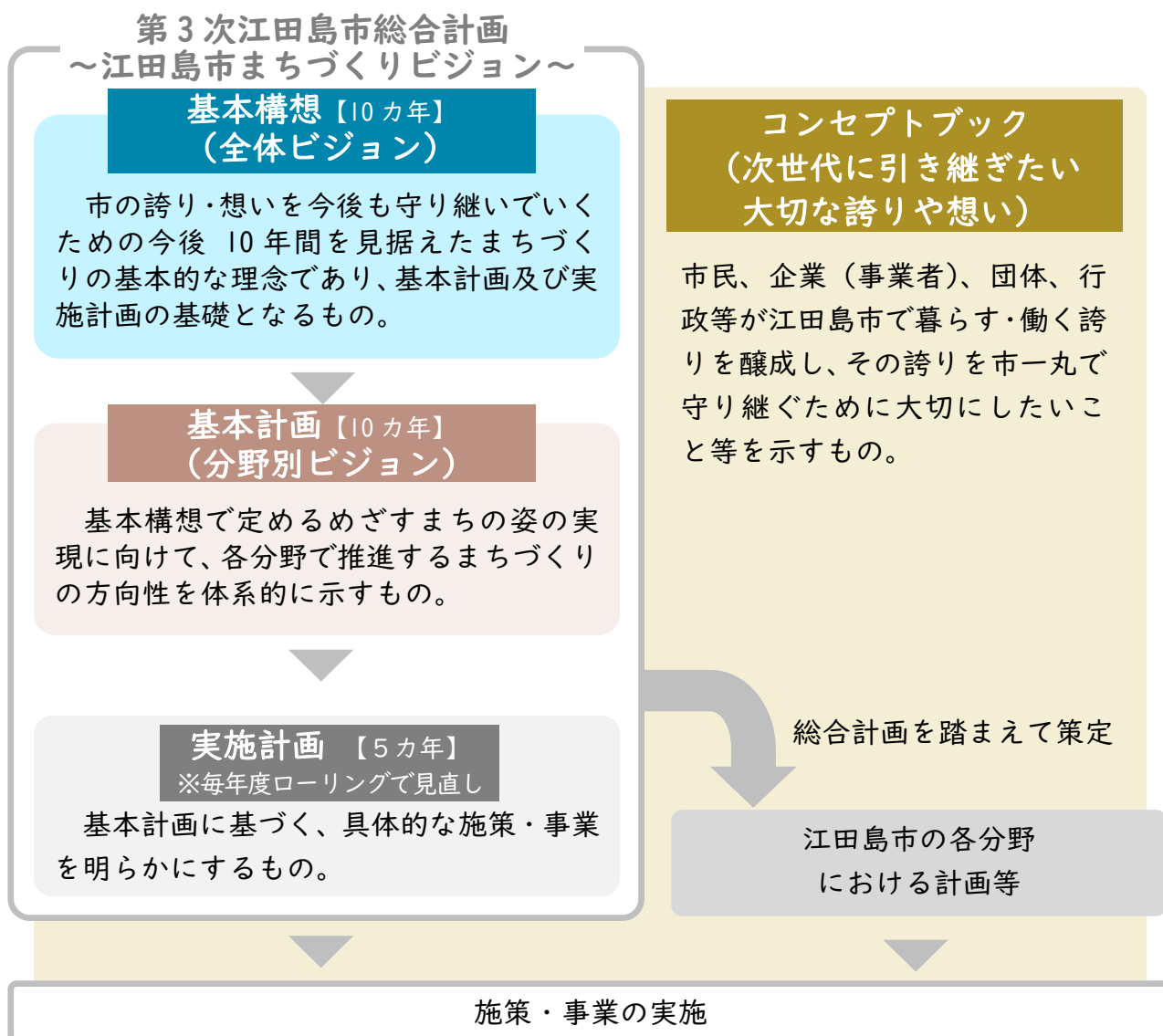
実施計画は計画期間を5年間とし、前期・後期で成果指標を踏まえた見直しを行うとともに、具体的な事務事業については、毎年度ローリングにより時点修正を行います。

なお、総合計画の付属資料として、江田島市民が大切にしていきたいまちの誇りや想いをまとめた「コンセプトブック」※を取りまとめます。

このコンセプトブックで示す、誇り・想いを胸に、江田島市の10年間のまちづくりを推進するものとしします。

※コンセプトブック（次世代に引き継ぎたい大切な誇りや想い）：市民とのワークショップ等の意見から抽出された、「江田島市で大切にしたいもの・誇り、広めていきたい想い」等、江田島市の豊かな暮らしや誇り等を守り継ぐための心構え等を整理した冊子

[江田島市総合計画の構成・位置づけ]



基本構想（全体ビジョン）

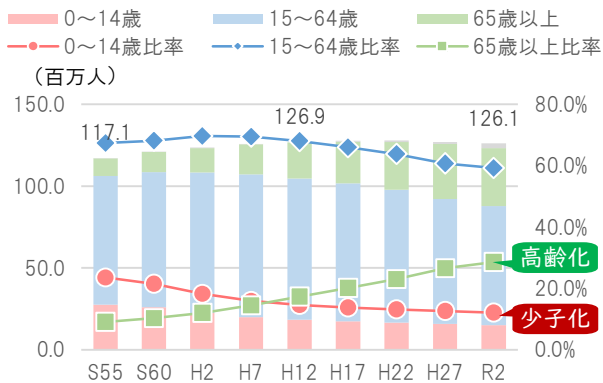
第2章 江田島市を取り巻く状況、
これまでのまちづくりの振り返り

まちづくりを取り巻く状況

1-1 江田島市を取り巻く社会の潮流

少子高齢化が進行 地域・産業の担い手不足も深刻化

[我が国の人口推移 (国勢調査)]



- 2020 (令和 2) 年の総人口は 1 億 2,615 万人で、日本全体の人口が減少しています。
- 2020 (令和 2) 年の合計特殊出生率は 1.26 と低水準ですが、高齢化は年々上昇しています。
- 地域の様々な分野で担い手不足による縮小が懸念されます。

産業・生活等あらゆる分野に デジタル技術が活用される時代

[農業用ドローン (農林水産省資料)]



- 社会全体で担い手不足が懸念される中、各種産業の生産効率や生活サービスの利便性向上、ビジネスの変革等、経済発展と社会的課題の解決に向け、あらゆる分野でデジタル技術を活用する DX (デジタルトランスフォーメーション) が進みつつあります。

ライフスタイル、価値観の変革 と多様性の尊重

[二地域居住のイメージ (国土交通省資料)]

例えば、平日は都市部で暮らし、仕事をして、週末などの休みを活用して趣味などのゆとりある生活を過ごすことが考えられます。



- 新型コロナウイルス感染症やデジタル技術の発展により、地方移住や都市と地方の「二地域居住」の考え方が注目されています。
- 「LGBTQ」をはじめ、年齢、性別、国籍、性自認にかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会の実現が求められています。

時代にあった教育の深化と 教育環境の整備

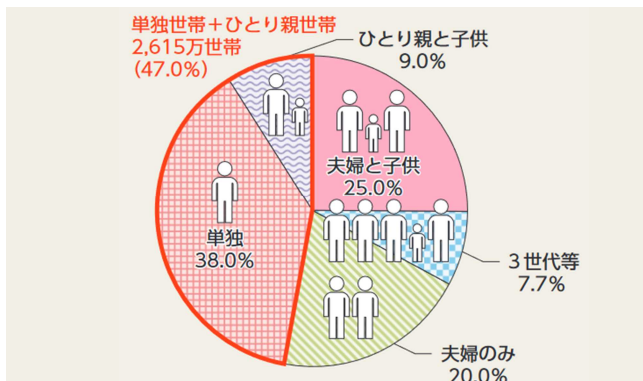
[ICT 端末を活用した教育 (総務省資料)]



- 「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を目指した学校教育が推進されています。
- 学校の ICT 環境整備を図ることで、学習活動の一層の充実を図る「GIGA スクール構想」が推進されています。

家族形態の変化・多様化 複雑化する福祉ニーズ

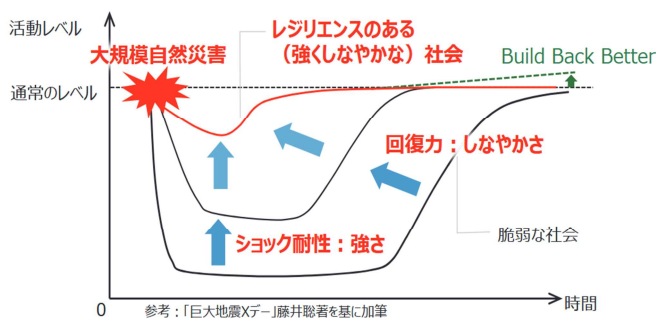
[我が国の世帯構成 (令和5年男女共同参画白書)]



- 地域住民や地域の多様な主体が参画し、助け合いながら暮らす「地域共生社会」の実現が求められています。
- 高齢世帯の孤立やヤングケアラー、ひとり親世帯の増加等、多様な悩み、生きづらさといった支援ニーズが多様化しています。

強靱で持続可能な 都市基盤の構築

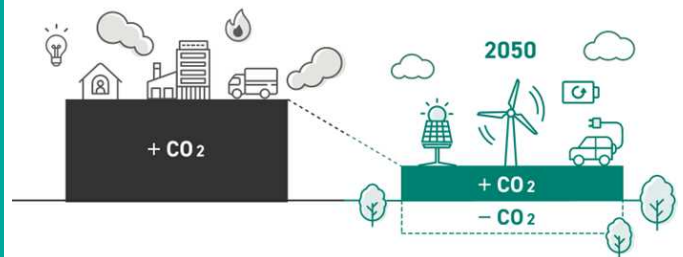
[国土強靱化の考え方 (内閣官房資料)]



- 自然災害が激甚化・頻発化する中、災害による被害の最小化、迅速な回復を図る「国土強靱化」のまちづくりが求められています。
- 老朽化する公共施設の更新や、公共交通の維持等が課題となる中、都市基盤・サービスの効果的な整備等が求められています。

カーボンニュートラルの実現 に向けたまちづくりの推進

[カーボンニュートラルの考え方 (環境省資料)]



- 我が国では、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しています。
- 森林資源、海洋生態系等の保全によるCO₂吸収や、暮らしにおける「脱炭素型のまちづくり」が求められています。

持続可能な行財政運営と 市民協働の推進

[持続可能な開発目標 (SDGs) (外務省資料)]

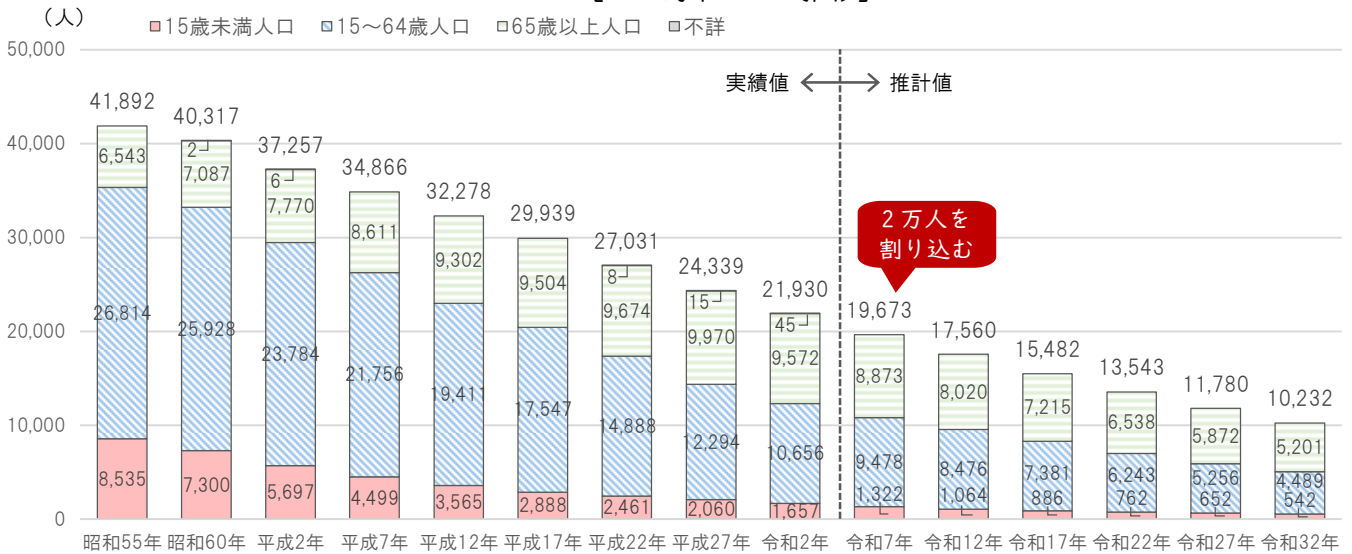


- 人口減少が進む中、地方自治体は効果的で持続可能な行財政運営が求められています。
- 多様な課題に対応するための「協働」のまちづくりの必要性が高まっています。
- 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に向けた取り組みが進められています。

1-2 江田島市の人口等の状況

人口は今後も減少。令和7（2025）年には2万人を割り込む見込み。

[江田島市の人口推移]

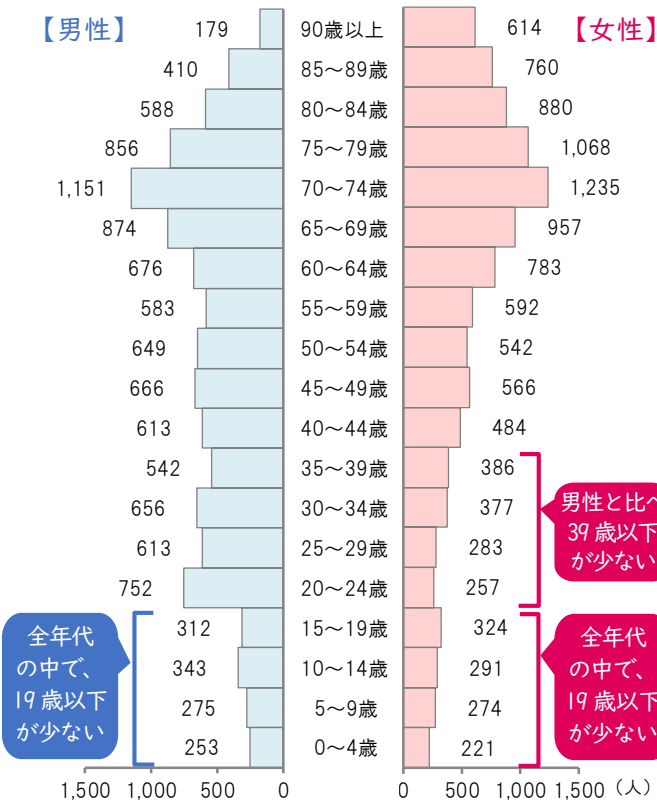


出典：昭和55年～令和2年は「国勢調査」

令和7年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」の推計（令和5年12月公表）

少子高齢化となっている状況。
特に若年層の女性人口が少ない。

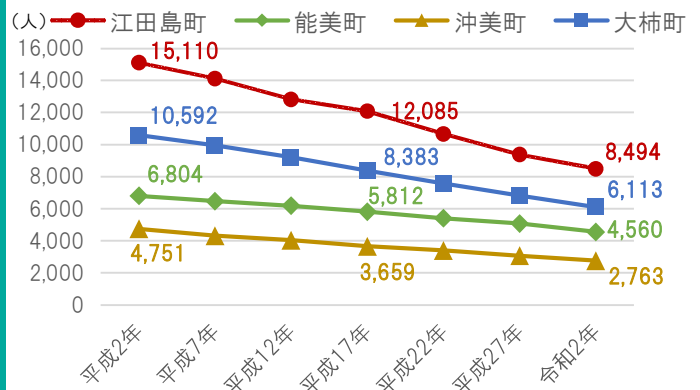
[江田島市の人口ピラミッド（令和2年）]



出典：国勢調査（令和2年）

各地区で人口減少が進行。

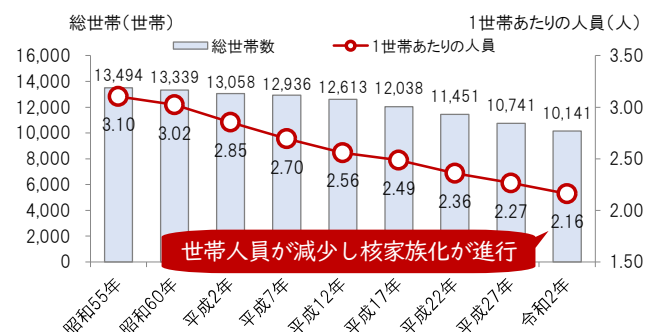
[地区別の人口推移]



出典：国勢調査

世帯数は減少。
また核家族化が進行。

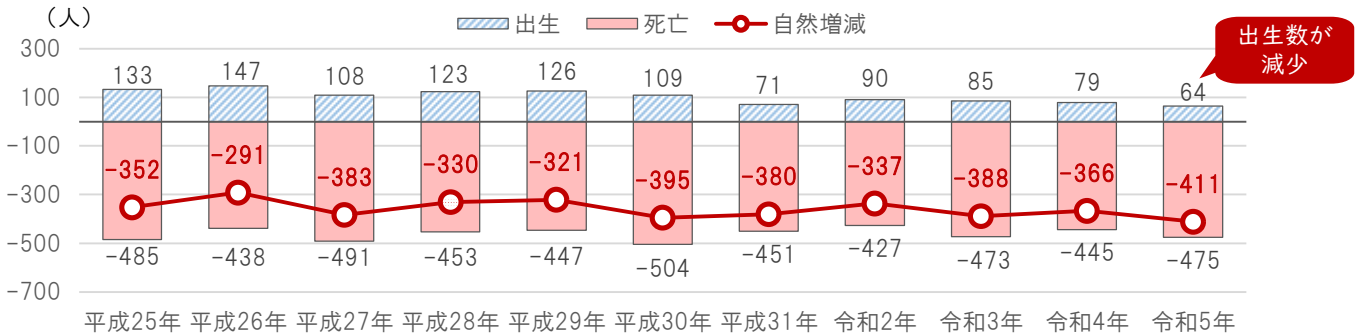
[江田島市の世帯数および世帯人員]



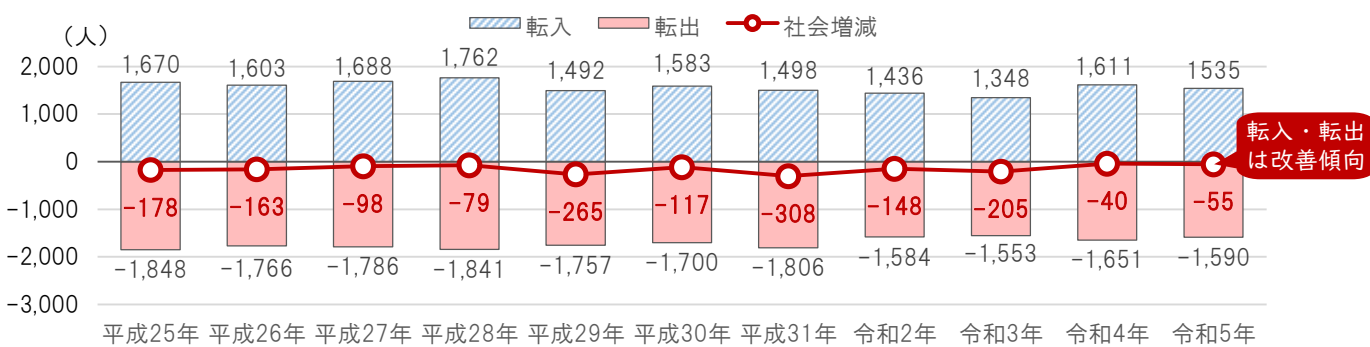
出典：国勢調査

出生数の減少による人口減が大きい。
転入・転出は転入増、転出減により、改善傾向にある。

[江田島市の出生・死亡数の推移]

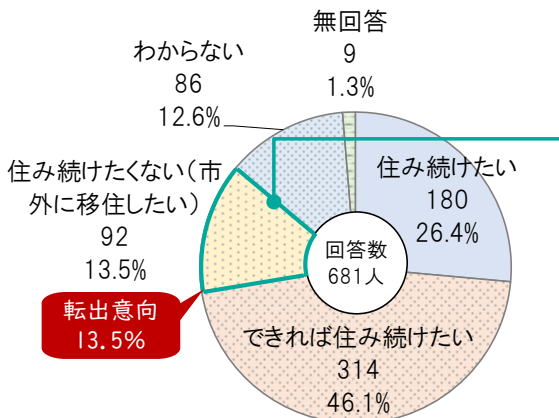


[江田島市の転入・転出数の推移]



各資料出典：住民基本台帳 ※各年10月1日現在

[定住意向 (市民アンケート)]

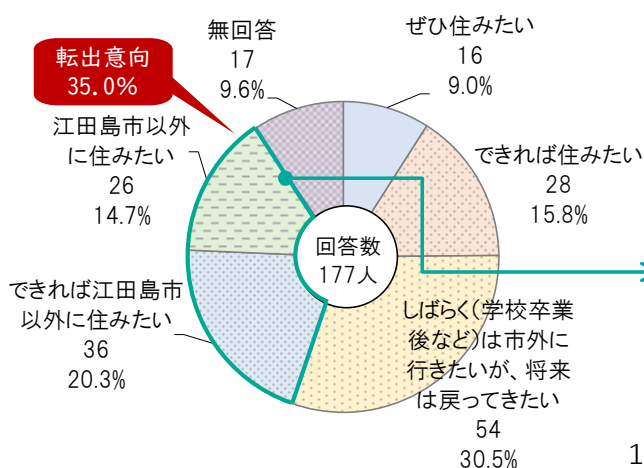


若者世代 (高校生世代) の転出意向が 35.0% となっている。日常生活の不便さや、希望する仕事の少なさが転出意向の要因になっている。

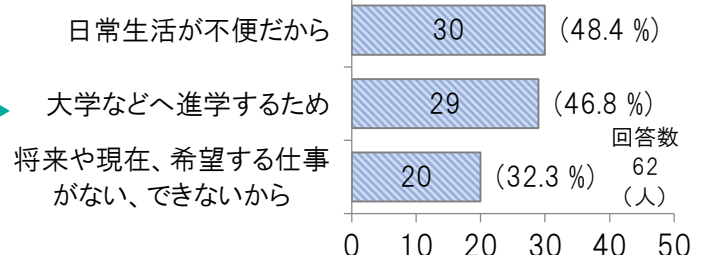
【主な理由 (回答が多かったもの)】

- 車の運転ができなくなると買い物や通院がしづらくなる。
- 買い物できる場所や飲食施設が少ない
- 交通が不便である。等

[定住意向 (若者世代 (高校生世代) アンケート)]



[江田島市以外に住みたい理由]



2 これまでのまちづくりの振り返り

2-1 江田島市における特長・主なまちづくり

ふるさと教育等により 地域への愛着を醸成

[江田島市里海学習 (マリンアドベンチャー)]

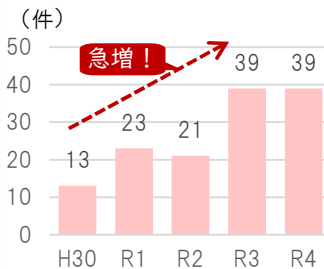


- 江田島市は、温暖な気候、美しい景観や、牡蠣・柑橘等の産業や自然体験型の観光、文化歴史等、豊かな自然から多くの恵みを得ている島です。
- 島の恵み豊かな故郷を知り、愛着を育むため、認定こども園で自然・文化体験を提供する「特色ある保育」、さとうみ科学館をはじめとした、小中学校における「里海教育」、郷土の文化歴史等を紹介する「ふるさと再発見事業」等を展開しています。

起業・事業進出や観光交流により 地域の賑わいと交流を促進

[空き家バンク成約数]

[企業による
プログラミング教室]



- 江田島市では移住者が魅力的な店舗を営む等、地域に活力を与えています。
- また、近年では企業の研修施設や宿泊施設、IT企業等、個性豊かな事業者が江田島市に開業・進出し、雇用創出や観光消費額の増加に寄与しています。
- 観光消費額はコロナ禍前より増加し、民泊の体験型修学旅行も再開する等、島内外の多様な人材や団体との交流が進んでいます。

外国人市民が安心して暮らせる 多文化共生のまちづくりを推進

[外国人市民数]

[えたじま日本語クラブ]

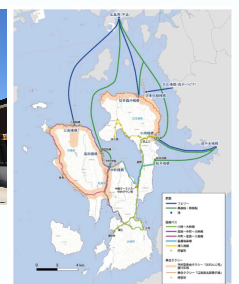


- 江田島市は、多くの外国人市民が在住しており、牡蠣養殖等の水産業、造船業等の担い手として、市の産業に根付く存在となっています。
- このようなことから、多文化が共生するまちを目指し、「えたじま日本語クラブ」による日本語学習支援、地域交流・参画の推進や生活相談、生活ガイドブック作成等、多様な人々が住みやすいまちづくりを推進しています。

都市圏に近く、生活機能がある程度揃った都市基盤

[市内の認定こども園]

[交通の状況]



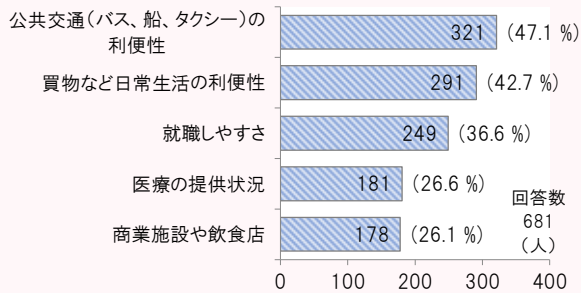
- 公共交通は、広島・呉都市圏と数十分程度で結ぶ航路が複数運航しており、陸上では、路線バスや予約型乗合タクシーが運行しています。
- また、認定こども園から小中学校、高校までの保育・教育機関や、病院・診療所、商業施設や飲食店等、生活関連施設が市内に一定数存在しています。
- 都市部ほどではありませんが、生活に必要な

な基盤となる機能は、ある程度整っています。

2-2 江田島市が直面する大きな課題

安心・快適に暮らし 続けられるまちづくりが必要

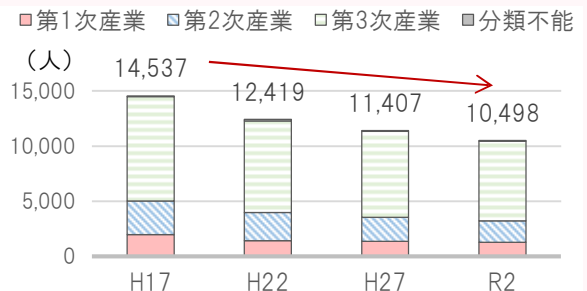
[江田島市の不満なところ (複数回答) (市民アンケート)]



- 人口減少・高齢化が進行する中、地域での支え合いがより重要となってきています。
- 公共交通や暮らしの不便さ、就職のしにくさ等が市民の不満の上位であり、転出や若者・子育て世帯等の転入阻害、暮らしにくさの原因になっていると考えます。
- 人のつながりや支え合い、しごとの創出、暮らしの基盤整備等を通じて、安心・快適に暮らし続けられるまちづくりが必要です。

雇用創出、産業の発展を応援し、 賑わいのあるまちの創出が必要

[産業人口の推移]

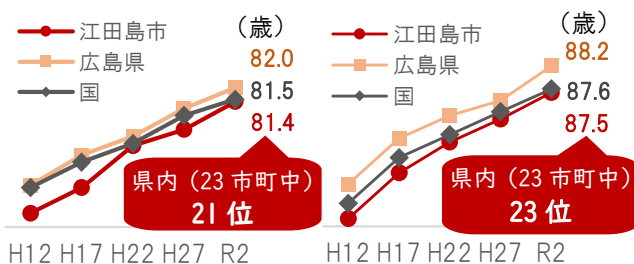


- 江田島市が持続可能なまちであるには、賑わいや雇用を創出する産業の活性化が重要です。
- しかしながら、産業人口は減少しており、特に農業では、人材の高齢化や遊休農地の増加等がみられます。
- 事業者の誘引、挑戦を応援するとともに、IT技術の活用等、人口減少に対応した産業づくり等、若者・子育て世帯が江田島市の産業を魅力に感じるまちづくりが必要です。

誰もが健康で幸福に 暮らせるまちの実現が必要

[平均寿命 (男性)]

[平均寿命 (女性)]



- 年々人口が減少し、少子高齢化が進行する江田島市においては、高齢者をはじめ、誰もが健康的に暮らせるまちづくりが重要ですが、平均寿命は国・県と比較しても低い水準にあります。
- 健康づくりや人とのつながりを通じて、心身ともに健康な暮らしを営むことができるまちづくりを推進することで、健康で幸福な暮らしの実現を図る必要があります。

美しい環境づくりへの 積極的な取組が必要

[えたじま未来の海づくり大作戦]



- 江田島市の海上・海岸では、漂流ごみや漂着ごみが多く見られます。
- また、道路脇の繁茂した雑木や雑草、遊休農地や空き家等、人の手が入らない自然や環境は、島の景観を損なうとともに、有害鳥獣対策の観点からも望ましくはありません。
- 里海で暮らし、その恵みを得ている江田島市として、内外に誇れる美しい環境づくりに積極的に取り組む必要があります。

基本構想（全体ビジョン）

第3章 10年後のまちづくり

市民・事業者等の想い

市民や若者世代のアンケート、ワークショップ、事業者へのヒアリング等から、江田島市への誇り・魅力や、期待する将来の江田島市の姿について、分析・整理します。

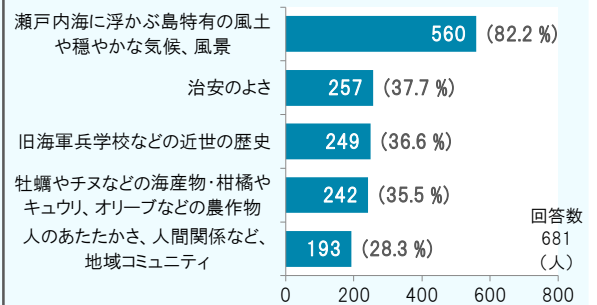
若者が集って元気あるまち！高齢者が暮らしていけるまちに！移住したい人が増えてほしい…



『市民』が考える江田島市の魅力・期待するまちの姿

- 瀬戸内海の島の気候、風景や、歴史、地域産品、“ひと”のあたたかさ・治安の良さが江田島市の良さとして多くあげられています。
- 不満な点として、公共交通や日常生活の利便性、就職、医療等が多くあげられています。
- 若者が住みたい、高齢者等が住みやすいまちが望まれており、その結果、人口増、活気の創出、暮らしやすさの実現を理想とする声が多くあげられています。

[江田島市の良いところ (複数回答) (市民アンケート)]



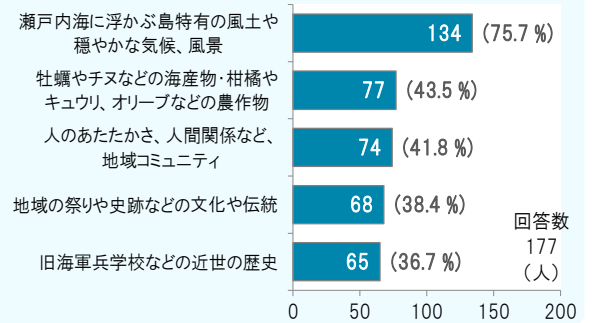
自然と住みやすさのハイブリットシティに！賑やかで楽しいまち！絵になる思い出の島…



『若者・学生』が考える江田島市の魅力・期待するまちの姿

- 江田島市の良さとして多くあがったのは、市民アンケートでの意見と同様の項目であり、また、市に愛着のある理由として、人とのつながりや風景、穏やかな風土が多くあげられています。
- 不満な点は、公共交通や日常生活の利便性、都市との距離、公園等が多くあげられています。
- 自然が豊かで住みやすく、人口が維持され、賑わいや活気のあるまちが望まれています。

[江田島市の良いところ (複数回答) 若者世代 (高校生世代) アンケート]



「里海」を広げたい！国籍・属性関係なく楽しく暮らせるまちに！お互いが支え合う市に…



『事業者』が考える江田島市の魅力・期待するまちの姿

- 観光や産業、教育、福祉等の多様な分野で、豊かな自然環境が好影響を与えているという意見があげられており、生活基盤がある程度揃っている点も魅力にあげられています。
- 何事も受け入れてくれる地域性が、良さとしてあげられています。また、多様な文化 (移住者や外国人等) も大切に作る気質が魅力としてあげられています。
- 一方で、少子高齢化に伴う人材・担い手の不足への不安、各分野間での連携強化等が課題としてあげられています。
- 将来なっしてほしいまちの姿では、豊かな自然環境や、地域の人同士のつながりを重要視する声が多く、その中で、様々な主体が健康で楽しく暮らせるまちが求められています。

『市民ワークショップ』での主な意見

■10年後のまちの方向性（キャッチコピー）

- 「一人一芸 福業の島 江田島 教育立島（IT×自然）」
：島で稼ぐことができる環境をつくる。一人一芸をもって、幸福に仕事ができるようにする。
- 「みんな（住民・移住・外国・観光）のまち 江田島」
：住民、移住者、外国人、観光客も含め、みんなが江田島市を自分たちのまちと感じてほしい。
- 「NEO 温個智信」：新しい技術を取り入れ、古き良きものをアップデートし、より良いものをつくる。
未来のふるさとづくり。
- 「住む人と来る人も満足するまち」：観光等で外部に良い印象を与えているので、住んでいる人もメリットや満足感を感じられるようにしたい。
- 「恵み多き島を耕し、私たちがつくる江田島を自慢したい！」
：恵み多き島を耕し、自分たちでつくる江田島市を自慢していきたい。
（「自慢する」ことを大事にしたい。）



『中高生ワークショップ』での主な意見

■未来のまちの姿・方向性（キャッチコピー）

- 「暮らしやすく自然豊かで認知度の高い島」：自然豊かで住みよいことを広め、認知度の高い島になってほしい。
- 「ハイブリッドシティ」：江田島市の魅力である自然や環境を守りつつ、住みやすさと両立したハイブリッドな島になってほしい。
- 「絵になる思い出の島」：いろいろな人にとって印象に残る島になってほしい。江田島市を出ても良い思い出がたくさんある島であってほしい。
- 「住みやすい島」：住みやすくすることで人口が増えてほしい。
- 「江田島 Story」：江田島市の開発が進み、10年後にもっと良い島になって、1つの物語として語れるようになってほしい。



小学生による未来の島の絵

■未来の島が「こんなまちになったらいいな」

- 「自然」（自然がいっぱい／自然豊か／緑がいっぱい／海がきれい 等）
- 「みんな」（みんなえがお／みんなが元気／みんなにやさしい 等）
- 「楽しい」（楽しい／楽しいがいっぱい／たのしくてしあわせ 等）
- 「笑顔」（みんなが笑顔／笑顔がいっぱい／笑顔があふれる 等）



2 江田島市がめざすまちの姿

2-1 めざす姿と基本的な考え方

めざす姿

豊かな恵みとぬくもりで みんなが輝き活躍できる えたじま

江田島市は、豊かな里海、産業資源等、豊かな恵みのあるまちであり、そこに住む人々も、あらゆる人々をあたたく迎え入れる、ぬくもりのある島です。このような環境を更に活かし、みんなが支え合える、活躍できる基盤をつくることで、島に関わる人々が江田島市を愛し、盛り上げ、幸せになれる島を目指します。

江田島市は、これまで、里海を軸とした自然環境・景観の保全、島の暮らしや人のあたたかさを感じられる交流、市民が誇りに思う産業・地域資源、認定こども園や学校等による子育て環境づくり、誰もが地域で安心かつ健康に暮らし、活躍できる地域づくり、防災や防犯による安全・安心なまちづくり等、『ふるさと』の自然や恵みを大切に活かしつつ、ひとつひとつ、まちづくりを進めてきました。

近年は、自然豊かな環境や人のあたたかさ、地域で活躍する人材等に惹かれ、移住者やUターン者の増加や、様々な企業・小規模事業者の市内進出や起業の活発化が生じています。こうした流れは、市外からも注目されつつあり、まちの活性化への機運が高まっています。

その一方で、人口減少や少子高齢化に歯止めはかかっておらず、江田島市に暮らす市民や事業者のみなさんからは、公共交通や日常生活の利便性、就職の場や医療等の向上、特に若い世代からは、人口の確保やまちの賑わいづくりが求められています。

今後は、高度成長期とは異なり、人口が減少し、ヒトやモノが限られていく中で、暮らしやすく活気のある江田島市を築いていく必要があります。

したがって、これからの10年間は、自然や資源、人材・団体等の交流や支え合い、ある程度揃った都市機能等、これまでのまちづくりで培った強みを活かすとともに、新たな人材・交流・活動を掛け合わせ、江田島市に関わる「みんな」が『まちをよくしていこう』という想いをもってまちづくりへ参画し、将来に向けた価値や魅力を創出していきます。

また、産業や生活等各種分野に対し、様々な技術を積極的に導入し、人口減少社会になやかに対応できる基盤を整え、江田島市で安心して生活できる暮らしの機能を確保していきます。さらに、市のまちづくりの活発な動きを市内外に発信していき、未来を担う次世代を確保していきます。

これらを通じて、賑わいや活力があり、かつ、誰もが安心して心豊かな生活を送り、若い世代等が様々なチャレンジや応援ができる、持続可能なまちの実現を目指します。

以上を踏まえ、江田島市では、「豊かな恵みとぬくもりで みんなが輝き活躍できる えたじま」を将来像（目指す姿）に掲げることとします。

《これまでの江田島市が取り組んできたこと》

「ふるさと」の恵みを活かした産業振興

里海を軸とした自然環境・景観の保全

あたたかさを感じられる交流の推進

安全・安心に暮らせるまちづくり

その一方・・・

《江田島市の課題》

- 人口減少・少子高齢化
- 産業や地域の担い手不足の加速化
- 公共交通、生活機能等生活の利便性の維持や向上
- 若者世代等の人口流出

このままだと、
江田島市の活力が低下

そこで、これまでのまちづくりを活かし・・・

《今後の10年間のまちづくり》

江田島市らしい新たな価値や魅力の更なる創出を推進、
幸福に暮らせる・活躍できるまちに！

みんな安心して、幸福に、豊かに生活を送ることができる！！

夢やチャレンジを後押し（応援）してもらえる！

江田島市が賑わってる！活気にあふれている！

市外・県外

市の認知度向上！
関係人口の増加！

魅力の発信
地域のPR

交流・産業誘致
移住等

地域活力向上！ 江田島市

——重点的に推進するまちづくりのテーマ——

- 自然や地域資源等の恵みの保全や活用
- 多様な人材等の挑戦による活力づくり
- 健康で安心して暮らせる生活基盤の充実
- 人口減少・地域課題に対応する新技術の活用

2-2 目標値

先述した将来像の実現に向けて、「人口指標」、「暮らしの指標」の2つを設定し、取組を行っていきます。

人口指標としては、年間出生数の改善と転入・転出の差である社会増減※をゼロにすることを目標とします。

また、暮らしの指標としては、「暮らしの満足度」「まちの住みよさ」「まちへの愛着」の3つの指標を設定します。特に若い世代（30代以下）において、全年齢と同水準の目標値まで各指標を引き上げていけるように取り組んでいきます。

これらの指標については、本計画の5年を経過した令和12年度に再度市民アンケート調査を実施し、進捗を確認することとします。

※社会増減：江田島市における転入数と転出数の差。

【人口指標】

年間出生数の改善	
令和5年（基準値）	令和16年（目標年次）
64人	年間出生数 100人台の回復

※基準値は、住民基本台帳（10/1現在）による。

社会増減ゼロ	
令和5年（基準値）	令和16年（目標年次）
▲55人	±0人

※基準値は、広島県人口移動統計調査公表値（月報報告の積み上げ：10/1起点）による。

【暮らしの指標】

暮らしの満足度指標 (満足+だいたい満足)	
令和5年（基準値）	令和16年（目標年次）
62.5%（全年齢）	75.0%（全年齢）
58.0%（30代以下）	75.0%（30代以下）

まちの住みよさ指標 (非常に住みよい+住みよい)	
令和5年（基準値）	令和16年（目標年次）
52.6%（全年齢）	70.0%（全年齢）
48.0%（30代以下）	70.0%（30代以下）

まちへの愛着指標 (強い愛着+ある程度愛着)	
令和5年（基準値）	令和16年（目標年次）
76.4%（全年齢）	80.0%（全年齢）
59.0%（30代以下）	80.0%（30代以下）

※基準値は、市民アンケート調査の結果による。

2-3 重点テーマの方向性

10年後の目指す姿の実現に向けて、特に重点的に取り組む4つのテーマを設定し、具体的な施策・事業を展開していきます。

【重点テーマ】

美しい自然や地域資源等の島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ

江田島市は、自然や瀬戸内海が育む気候、環境、景観から市が誇るべき産業・特産品や観光資源が生まれています。また、穏やかで美しく、安らぎが得られる島の環境は、教育、子育て、福祉等多様な分野に対しても、良い影響を及ぼすことができ、地域を担う若者にも、自慢・PRすべき資源として捉えられています。

これらの里海環境からなる豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぎ、それらを活用・発信することで、みんなが誇る美しい自然と共生し続けるまちづくりの推進を図ります。

多様な人材・団体の交流やチャレンジを促し、まちの賑わい・活力を創出する

市民が持つ「あたたかさ・受け入れる心」が、移住者の増加や企業誘致、起業・創業、多文化共生の推進につながっています。

このような多様な文化・価値観を受け入れる土壌を活かし、江田島市でのチャレンジを促し、応援する環境を整えることで、様々な人材・団体の誘引や魅力的な産業の創出、しごとの場づくり等につなげていき、まちの賑わい・活力を望む若者や子育て世代をはじめ、あらゆる人々に魅力的で、選ばれる江田島市を構築していきます。

あたたかな人のつながりがあり、健康で安心し幸福に暮らせる生活基盤を充実させる

人口減少により社会が変革し、暮らしの価値観も多様化する中で、誰もが江田島市で健康で安心して、幸せに暮らしていける地域づくりが重要であり、その実現には、あたたかな人のつながりから生まれる助け合い、支え合いが欠かせません。特に若者は、公共交通や日常生活の利便性等に関する生活基盤の整備を望む声が強く、江田島市の定住・移住の鍵にもなると考えます。

このため、社会や時代の流れを踏まえながら、あたたかな人のつながりがあり、誰もが安心して地域で暮らすことができる生活基盤の確保を図ります。

様々な分野に新技術を積極的に取り入れ、活力の創出や暮らしの機能を確保する

人口減少が進展し、産業や地域活動等、地域全体の担い手不足が予測される中で、多様化・複雑化する地域課題解決への寄与や若者世代をはじめとした、多様な暮らしのニーズに対応していくため、様々な分野にデジタル技術をはじめとした新技術を積極的かつ柔軟に取り入れ、工夫を図ることで、活力を創出し、暮らしやすい江田島市を構築していきます。

3 施策体系

将来像 **豊かな恵みとぬくもりで みんなが輝き活躍できる えたじま**

《重点テーマ》

美しい自然や地域資源等の島の豊かな恵みをみんなで大切に引き継ぐ

多様な人材・団体の交流やチャレンジを促し、まちの賑わい・活力を創出する

あたたかな人のつながりがあり、健康で安心して暮らせる生活基盤を充実させる

様々な分野に新技術を積極的に取り入れ、活力の創出や暮らしの機能を確保する

基本計画（分野別ビジョン）

《分野》

1 教育・文化

豊かな自然環境や人材を活かした教育、生涯通じて学び、輝き続けることのできるまちづくりを推進していきます。

2 産業・観光 ・交流

各種産業の活性化や担い手の育成確保等産業・観光を通じたまちの賑わいづくりや、交流の創出を推進していきます。

3 福祉・保健

様々な人々がすべて分け隔てなく、共につながりを持ち、健康で長く安心して暮らしていけるまちづくりを推進していきます。

4 生活・環境

自然環境を大切にしながら、環境負荷の少ない暮らしやすい循環型社会の構築を推進していきます。

5 安全・安心

防災・防犯等に向けた取組を展開し、誰もが安心して暮らせる、安全なまちづくりを推進していきます。

6 社会基盤

都市基盤や施設の効果的・効率的な整備を通じて、持続可能で安心して暮らすことのできる基盤を確保していきます。

7 自治・ コミュニティ

一人一人の人権や多様性が尊重され、かつ、コミュニティを活かしたまちづくりを推進していきます。

8 行財政

社会の状況や市民ニーズ等をくみ取りながら、持続可能な行政運営に取り組みます。